

～500トン級がある。経営近代化の問題は、人員不足を省力化でカバーし、1艘旋き100～200トン型船を10～15人で操業する。サバ、カツオ、キワダ沖合旋網漁ではソ連と競合が予想され、船の規模を大きく、省力化、経営基礎を強化しなければならない。パワーブロック、サイドローラーなど一連の施設も要る。漁海況調査、標識放流、沖合共同調査など必要となろう。(前記旋網組合専務入沢善孝氏談を参照 宇田 道隆記)

13 1966年度漁期におけるノルウェイ、アイスランド、

チリーおよびオーストラリアにおける基地捕鯨の捕獲状況

ノルウェイ捕鯨操業は2つの基地で行なわれ、ナガス、イワシおよびマツコウクジラが捕獲された。Steinshamn と Tromsøにある各基地では夫々3隻の捕鯨船が稼働した。漁期は4月15日から10月15日までであるが、実際には、5月31日に初漁があり、9月30日の捕獲が終漁となっている。

捕獲成績は、ナガスクジラ54、イワシクジラ1、マツコウクジラ36、合計91頭で生産は次の通り。

ナガス油(ヒゲ鯨類から生産された鯨油)：2051バレル、マツコウ油1620バレル
 ビーフステーキ^{注1)} 182516キロ、小肉114190キロ、動物用餌料402100キ
 ロ、鯨肉^{注2)} 103100キロ。

なお、最近の5ヶ年間に於ける鯨種別の捕獲状況は次のようになっている。

年 度	鯨 種			計	産油量
	ナガス	イワシ	マツコウ		
1962	76	—	57	133	4530 ^{注3)} バレル
1963	21	—	68	89	3462
1964	32	—	42	74	2910
1965	101	—	23	124	4407
1966	54	1	36	91	3671

注1) ビーフステーキが如何なる製品か不明

2) 鯨肉と小肉の相違不明

3) 1バレル=1/6トン

アイスランドHvalfjörður 基地において4隻の捕鯨船が操業し、ナガスクジラ310イワシクジラ41およびマコウクジラ86合計437頭の捕獲があつた。生産は、ナガス油13584バレル、マツコウ油4826バレル、肉骨ミール2238トン、冷凍肉2669トン、塩蔵脂皮106トン、肉エキス83トン。

最近5ヶ年間の捕獲状況は次の通り。

漁 期	鯨			種 計	産 油 量 バレル
	ナガス	イワシ	マツコウ		
1962	303	44	136	483	20357
1963	283	20	136	439	20212
1964	217	89	138	444	18913
1965	288	74	78	432	17273
1966	310	41	86	437	18410

チリーQuintay を基地に、8隻の捕鯨船が操業し、シロナガスクジラ126、ナガスクジラ80、ザトウクジラ7、イワシクジラ207およびマツコウ466計886頭を捕獲した。

生産は、ナガス油11,227バレル、マツコウ油10,569バレル、骨および肉ミール617トン、冷凍肉4,005トンとその他316トンに達した。

最近5ヶ年間に於ける捕獲成績は次の通り

漁 期	鯨				種 計	産 油 量 バレル	基地数
	シロナガス	ザトウ	イワシ	マツコウ			
1962	—	16	—	1	2031	31025	1
1963	26	3	1	5	1162	21155	1
1964	108	107	—	38	1039	31057	2
1965	371	265	6	439	267	40100	2
1966	126	80	7	207	466	21796	1

オーストラリア—Albany 基地で、3隻の捕鯨船が操業し、マツコウクジラのみ606頭の捕獲があつた。

生産は、マツコウ油25,051バレル、ミール991トン、ソリブル1,845トン。最近5ヶ年間の捕獲成績は次の通り。

漁 期	鯨		種 計	産 油 量 バレル
	ザトウクジラ	マツコウクジラ		
1962	40	565	605	25054
1963	19	572	591	24171
1964	—	710	710	30108
1965	—	668	668	26508
1966	—	606	606	25051

(奈須 敬二 抄訳)